



標準施工要領書

【釘打用・単層フローリング】



標準施工要領書 【釘打用・単層フローリング】

はじめに：無垢フローリングの特性

一般的な複合フローリングと異なり、無垢フローリングは水分により材が伸縮するため、使用開始後に不具合が発生しやすい建築材料です。
過度な水分や湿度による突き上げや波打ち、過度な乾燥による隙や割れなどが発生しないように正しく施工し、正しく使用していただければ無垢フローリングは快適に末永くご利用いただけます。
無垢フローリングの特性を理解し、水分・乾燥に注意して正しく施工してください。

施工前の準備

施工前の注意点

- ・製品の仕様（樹種、サイズ、塗装仕上など）、数量に間違いがないか確認をお願いします。
- ・製品に瑕疵がないか確認してください。
- ・保管の際は直射日光や雨が当たる場所は避けてください。また湿気を避けた場所で立てかけずに平置きにしてください。

使用する接着剤

- 推奨接着剤：コニシ(株) KU928C-X(1液ウレタン樹脂接着剤)同等品
コニシ(株) KU980(1液ウレタン樹脂接着剤)同等品
コニシ(株) E350R(2液エポキシ樹脂接着剤)同等品
株オーシカ セレクティ EP-72F(2液エポキシ樹脂接着剤)同等品

※酢酸エマルジョン系の接着剤(白ボンド)は使用しないでください。

※文教施設や医療施設、商業施設など不特定多数の人が使う広い面積に使用する場合は、空調設備による温湿度調整が難しい環境で使用する場合は、硬化性に優れた2液エポキシ樹脂接着剤を使用してください。また、巾広(150mm以上)の単層フローリングは使用目的に関わらず2液エポキシ樹脂接着剤を使用してください。

使用する釘

- ・フローリング材固定の釘は38mm以上の長さのフロア用ステープルあるいはフロア用スクリュウ釘を使用してください。
- ・フィニッシュネイルは使用しないでください。(拘束力が弱いため)

施工環境の確認

- ・床下の湿度が高く湿気がこもりやすい使用環境の場合(湿地帯や水辺、地下室など)は換気や防湿など十分な湿度対策を行ってください。
- ・冷暖房機器や換気システムからの風が床面に直接当たらないように注意してください。またストーブの周辺部ではフローリング材が過度に乾燥し不具合を起こす場合があります。フローリングにそのような使用環境が想定される場合は別途乾燥対策を行ってください。

下地の確認

- ・下地として厚み12mm以上の耐水合板(JAS認定品：F☆☆☆☆)を使用してください。
- ・施工の際は合板が濡れていないことを確認し、含水率12%以下であることを確認してください。
- ・パーティクルボードやMDF、HDF材の上に直接フローリングを貼ることはできません。
- ・二重床下地、鋼製床下地の場合、当該メーカーの取扱説明書に基づき施工してください。

施工の手順

- ・施工の前に仮並べを行い、色合いのバランスを確認してください。またその際に製品瑕疵がないかの確認を行ってください。

■張り並べ方法：1液ウレタン樹脂接着剤(コニシ(株) KU928C-X)

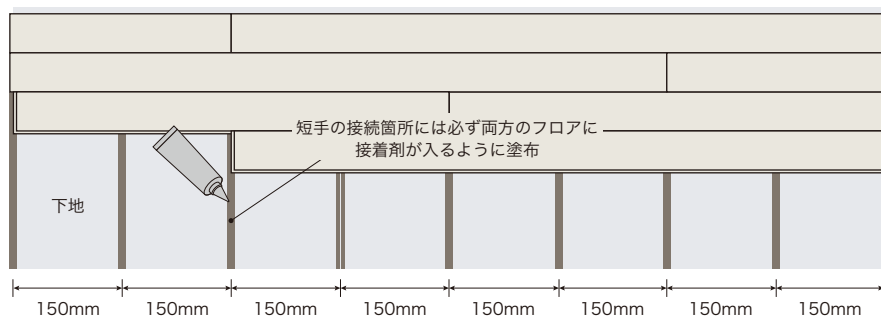
1液ウレタン樹脂接着剤(コニシ(株) KU980)

- ・フローリング材は捨貼合板と直交するように張り込んでください。
捨貼合板の継ぎ目とフローリング材の継ぎ目が重ならないようにしてください。
- ・接着剤は捨貼合板の上に150mmピッチ程度でビード状に塗布します。【図1】
- ・フローリング材の短手の接続箇所には必ず両方の端部に接着剤が入るように塗布してください。
- ・塗布量の目安は下記の通りです。

商品名	塗布量	貼り合わせ可能時間
コニシ KU928C-X	300～350g/㎡ ビードφ6mm以上	夏：20分以内 冬：60分以内
コニシ KU980	300～350g/㎡ ビードφ6mm以上	60分以内

- ・フローリング材の実に直接接着剤を塗布しないようにしてください。床鳴りなどの不具合の原因となります。

【図1】



■張り並べ方法：2液エポキシ樹脂接着剤(コニシ(株) E350R)

2液エポキシ樹脂接着剤((株)オーシカ セレクティ EP-72F)

- ・フローリング材は捨貼合板と直行するように張り込んでください。
捨貼合板の継ぎ目とフローリング材の継ぎ目が重ならないようにしてください。
- ・接着剤は捨貼合板の上にクシ目ゴテを利用して全面に均一に塗り広げてください。【図2】
- ・クシ目ゴテは60°～90°の角度を保ってできるだけ一連の動作で塗り広げてください。
一度塗り広げた部分を再度クシ目ゴテでこそがないでください。
- ・塗布量の目安は下記の通りです。

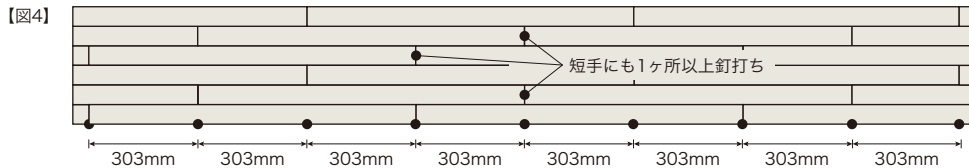
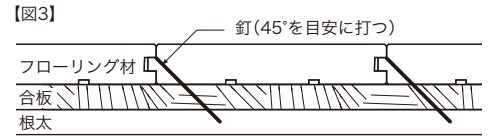
商品名	塗布量	貼り合わせ可能時間
コニシ E350R	500g程度/㎡ 全面塗り	夏：30分以内 冬：120分以内
オーシカ EP-72F	500g程度/㎡ 全面塗り	夏：30分以内 冬：90分以内

【図2】

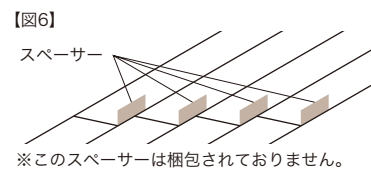
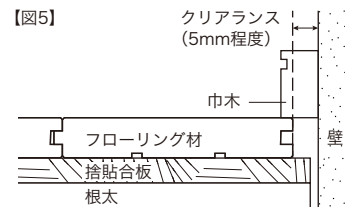




- ・釘打ちは雄実の付け根から 45 度の角度を目安に斜めに打ち込んでください。
雄実を破損させないように注意してください。【図 3】
 - ・釘打ちは 303mm 程度のピッチで根太上に行ってください。
 - ・短手の雄実にも 1 か所以上の釘打ちをしてください。【図 4】
- ※巾 150mm 以上の場合は 2 か所以上の釘打ちをしてください。
- ・接着剤がはみ出してフローリング表面に付着した場合は、速やかに拭きとってください。接着剤が硬化すると除去できなくなります。



- ・壁際やサッシ、建具際は密着させないでください。
5～10mm 程度のクリアランスの確保をお願いします。隙間は巾木や見切材料を使用して目立たないようにしてください。【図 5】
- ・膨張による突き上げを防ぐため、スペーサーを使用してクリアランスを確保してください。(0.3～0.4mm 程度)
スペーサーは 500mm 程度の間隔で入れ、当て木の上からゴムハンマーなどで軽く叩いて実をはめ込んでください。【図 6】



施工後

- ・養生前に施工面をきれいに掃除し、木くずや建材の粉、小石、汚れなどを完全に除去してください。
また養生前には必ずフローリング表面に湿気が残っていないことを確認してください。
- ・施工後は養生マットを敷き詰めてください。その際にフローリング材が露出している部分がないように注意してください。日焼けなどにより変色の原因になります。ベニヤ板やブルーシートで養生するとフローリングを傷める場合がありますので注意してください。
※特に自然オイル塗装で仕上げられたフローリングは、養生を行う前にフローリング表面に湿気や水分がないことをよく確認したうえで必ず通気性のある養生材をご使用ください。自然オイル塗装品にブルーシートなどの通気性のない素材で養生を行うと水分等によりフローリング表面に白化現象が発生する場合がありますのでご注意ください。
- ・フローリング材に直接養生テープを貼ることはできません。施工状況により、直接貼らざるを得ない場合は、十分注意してください。接着力が強いテープを使用した場合、塗膜やフローリング材を傷める可能性があります。
- ・フローリングに塗布されている塗料によってクリーニング方法が異なります。事前に使用されている塗料を確認の上、正しく引渡し前のクリーニングを行ってください。木質系フローリングに過度の水分は大敵です。クリーニングには多くの水分を使わずに硬く絞った雑巾などをご使用ください。

